



# 和洋女子大学について

- 1897(明治30)年、創立者である堀越千代が、東京の麹町区飯田町(現在の千代田区富士見)に設立した裁縫の各種学校「**和洋裁縫女学院**」が和洋の歴史のはじまりです。戦災により千葉県市川市国府台に移転しました。
- 和洋裁縫女学校、和洋女子専門学校を経て、1949(昭和24)年に**和洋女子大学**がスタートしました。
- 1950(昭和25)年、短期大学部と同時に教職課程(中学家庭・保健)も設置されました。
- 以後、2022(令和4)年に学校法人和洋学園は、創立125周年を迎え、現在は4学部9学科3研究科、2026(令和8)年4月には、AIライフデザイン学部が開設されます。
- **こども発達学科**(定員70)は、2026年3月で15期目の卒業生となります。 \*学位：学士(教育学)

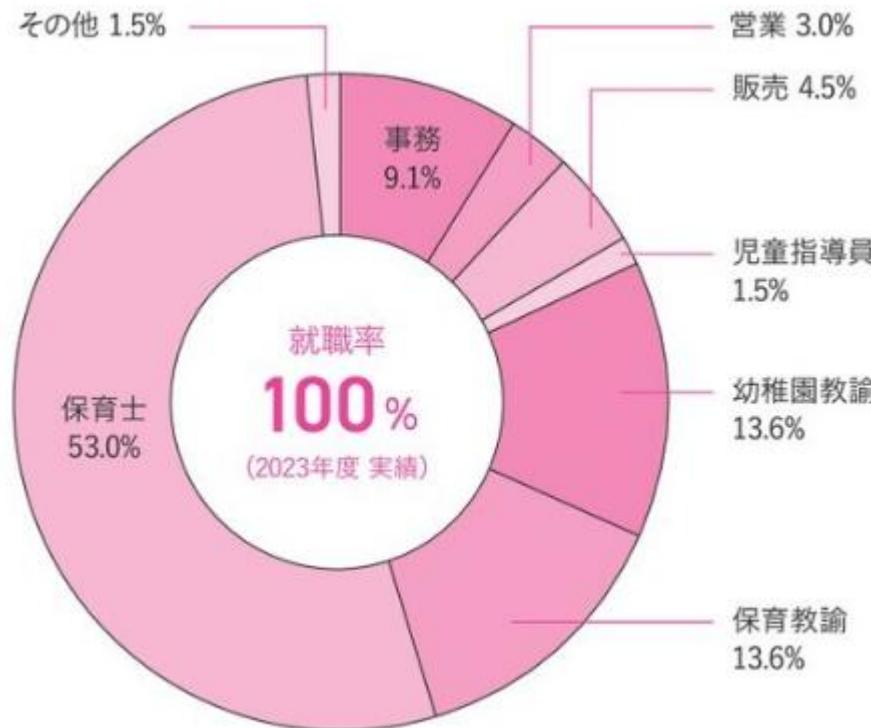
# 子ども発達学科における免許・資格課程

- ・幼稚園教諭一種免許状／保育士資格の養成課程 ※小免課程なし  
⇒教育職員免許法施行規則第二条、児童福祉法施行規則第六条の二の三第一項第三号に基づくシンプルな養成課程カリキュラム  
※今後、学生がどんな保育者になりたいかの希望を叶える**強み専門性**をどのようにカリキュラムに活かしていくかが課題、但し教員組織の問題も  
⇒幼免課程と保育士課程とで共通開設科目が34単位程度あり  
(参考資料)  
※卒業要件124単位以上(共通総合科目26単位以上、専門教育科目54単位以上)だ  
いたい130~140単位くらいで卒業
- ・その他、認定ベビーシッター、准学校心理士、児童指導員等の任用資格が取得可能



# 子ども発達学科卒業生の進路

## ・2023年度実績



出典：2026大学案内p.45

保育職、幼児教育の分野で幅広く活躍しています

【公立保育園】(東京都) 墨田区・葛飾区・江戸川区・足立区・文京区・中央区・江東区 (千葉県) 千葉市・船橋市・習志野市・松戸市・南房総市・成田市・鎌ヶ谷市・柏市・旭市 【保育士】社会福祉法人ユーカリ福祉会、社会福祉法人武藏野会、二葉乳児院、モード・プランニング・ジャパン、HITOWAキッズライフ(子育て家庭サポート)、グローバルキッズ(保育施設・学童保育)他 【幼稚園】(学校法人) 渋谷教育学園、近藤学園、市川学園、まるやま学園、こざくら学園、柴又帝釽天附属ルンビニ幼稚園、オイスカパンコク日本語幼稚園 他 【こども園】(学校法人) 高柳学園、石原学園、宇野学園、大森学園 他 (社会福祉法人) 青葉学園、ユーカリ福祉会、千葉福祉会 他 【その他】アイ・ケイ・ホールディングス(婚礼)、KCJ GROUP(キッザニア運営)、木下工務店 他

\* その他：年度により大学院進学（協定校の上越教育大学他）や留学等あり



# 4年間の養成課程を振り返って①

- 4年次後期科目「**保育・教育実践演習**」2025年度担当クラス(31名)  
**【到達目標】**
  - 専門職としての使命感・責任感、倫理観、社会性や対人関係能力等について説明できる。
  - 子ども理解と保育者の援助、子育ての支援に関する保育・教育実践力を高めることができる。
  - ディスカッションやグループ討議並びに保育に関する今日的課題の検討を通じて自己の課題を明確化し、取り組むことができる。

⇒履修カルテの資質能力の自己評価票を基にこれまでの学修内容を振り返り、自己の課題を明確化し、グループに分かれて協議・検討

- \* 2025年度は7つの方向性が見えてきた
- \* 実践的探究を行いその成果をプレゼンテーション
- \* 改めて4年間の養成課程を振り返ってレポート

|   |                   |
|---|-------------------|
| A | 保育における連携・協働       |
| B | 子どもの発達過程と保育者の援助   |
| C | 保護者支援・子育て支援       |
| D | 保育者と子どもとの関係性      |
| E | 特別な配慮を必要とする子どもの保育 |
| F | 教材研究・指導計画         |
| G | 保育の基礎理論と保育実践      |

【自己の課題の方向性】



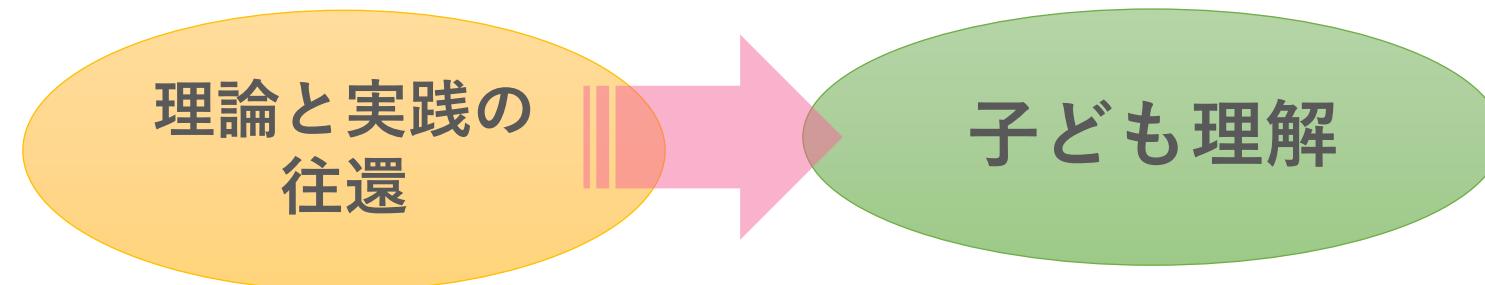
# 4年間の養成課程を振り返って②

- 4年次後期科目「保育・教育実践演習」2025年度担当クラス31名

**【レポート概観】** \*本資料作成にあたり、成績評価後に文書による説明を行い、学生への同意手続きを行った。

## ○身についたこと・学んだこと

子ども一人一人の発達過程に応じた援助、子どもの背景や状況への理解、子どもの行動の意味を考えること、個に寄り添う姿勢、子どもの視点に立つこと、他者とのコミュニケーション、保育者同士の連携、保育を計画し実践する力、具体的な保育技術、保育者の専門性への気づき、など



## ○課題

一人一人に応じた援助やかかわりの判断・見通し、子どもにとっての最善のかかわり、クラス経営力、状況の変化に柔軟に対応する力、振り返りから課題を見つけ次の保育に生かしていく力、など



和洋女子大学

こども発達学科

# 保育者養成に求められる学び①

## ・継続した体験的学びの機会の充実

⇒ 実習・実習以外で子どもや保護者に出会う体験

(保育実践の場、子育て支援実践の場、福祉実践の場、学童クラブ、  
小学校、地域など)

\* 参考①：文部科学省中央教育審議会(2015)「これからの中学校教育を担う教員の  
資質能力の向上について（答申）」学校現場や教職の実際を体験

\* 参考②：認定絵本士の地域貢献活動 ・前徳(2025)

\* 参考③：ニュージーランドの養成教育(実習)

・鈴木(2015) ワイカト大学のBachelor of Teaching(Early Childhood)3年コース  
のカリキュラム紹介 実習は年2回、1年次3週と4週、2年次4週  
と4週、3年次4週と6週、計25週

・谷島(2026) 日本に帰国中のニュージーランドで働く保育者を紹介  
Graduate Diploma of Teaching(Early Childhood) 1年半のオンライン授業 ①通常実習週16時間以上(自己開拓)、②短期実習  
計16週間(大学が配属 + 学習目標とレポート)



# 保育者養成に求められる学び②

- ・養成課程で最低限身につけるべきもの：  
子どもという存在との本質的な出会い  
子どもが始めた小さなことに目をとめる  
子どもの世界をともに歩む  
子どもの内的世界に触れてその子自身の発達の体験について  
考える  
実践における体験を振り返り、その意味を意識化すること  
⇒子ども理解に欠かせない**省察** 津守(1980)



# 保育者養成に求められる学び③

- ・子どもを取り巻く環境を含めて総合的にみるまなざし

領域の相互関連性

遊びの豊かさを味わい支える保育者の役割

はじめの100か月の育ち、多様な育ち

個別配慮を必要とする子ども

教育・保育・福祉・心理

子育ての支援、子どもの権利

多文化

メディア・情報

理論・知識・実践

⇒ 科目間連携、大学間連携、地域との連携

学外施設との連携、自治体との連携

\*①②を踏まえ…

統合を学生に委ねるのではなく、科目を整理し、幼保の整合化を図り、網羅的にではなく、より深めたいテーマや内容に取り組める柔軟性ある学びの環境を  
⇒完成形ではなく、現職まで連続する学びへ



# 引用・参考文献

---

- ・文部科学省中央教育審議会 (2015) 「これからの中学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」
- ・前徳明子 (2025) 「認定絵本士養成課程をもつ現場からの報告—様々な学びと今後の課題—」  
日本子ども学会話題提供
- ・鈴木佐喜子(2015) 「変化する保育現場と保育者養成、保育者の成長の課題—日本とニュージーランドの比較を通じて—」『臨床教育学研究』第3巻,pp.24-42
- ・谷島直樹「養成校の学びから、その国の保育を読み解く—ニュージーランドの保育者養成校修了者と日本の学生の本音—」2026/1/31開催研究会
- ・津守真(1980) 『子どもの世界の探究 保育の体験と思索』,大日本図書
- ・小川博久(2013) 『保育者養成論』 萌文書林
- ・真島聖子「大学間ネットワークでつなぐ教員養成—質保障と持続可能性の両立に向けて—」  
中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第155回）配布資料,2025/9/19

# 参考資料

## 和洋女子大学(こども発達学科)における幼稚園教諭免許状(一種)と保育士資格の養成課程における科目的開設方法について

| 幼稚園教諭(教育課程免許法施行規則2-2) |   | 保育士(厚生省告示第198号)         |  |   |
|-----------------------|---|-------------------------|--|---|
| 教科及び教題に関する科目          | 各科目に含めなければならない事項  | 系列                      | 教科目                                    | 単位数   |
| 領域における専門的事項           | 「こどもと接するこどもと人間関係」「こども環境」「こどもと表現」として共通に科目を開設   | 保育の対象の理解に関する科目          | 共通開設科目以外(本学の場合):<br>こどもと造形、こどもと音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | (選択必修)  |
| 領域における専門的事項           | 「保育内容総論」として共通に科目を開設   | 保育の内容・方法に関する科目          | 保育内容総論(演習)                             | 1   |
| 領域における専門的事項           | 「保育内容(健康)の指導法」「保育内容(人間関係)の指導法」「保育内容(環境)の指導法」「保育内容(言葉)の指導法」「保育内容(表現)の指導法」として共通に科目を開設 | 保育の内容・方法に関する科目          | 保育内容演習(演習)                             | 5   |
| 領域における専門的事項           | 「教育原理(講義)」「保育原理(講義)」(教職は選択)として共通に科目を開設  | 保育の本質・目的に関する科目          | 教育原理(講義)<br>保育原理(講義)                   | 2<br>2  |
| 領域における専門的事項           | 「保育者論」として共通に科目を開設   | 保育の本質・目的に関する科目          | 保育者論(講義)                               | 2   |
| 教育の基礎的理解に関する科目        | 「教育社会論」として教職課程のみ科目を開設(必修)   | 保育の対象の理解に関する科目          | 保育の心理学(講義)                             | 2   |
| 教育の基礎的理解に関する科目        | 「保育の心理学」として共通に科目を開設   | 保育の内容・方法に関する科目          | 障害児保育(演習)                              | 2   |
| 教育の基礎的理解に関する科目        | 「特別支援教育・保育」として共通に科目を開設  | 保育の内容・方法に関する科目          | 保育の計画と評価(講義)                           | 2   |
| 教育の基礎的理解に関する科目        | 「教育課程・保育の計画論」として共通に科目を開設  | 保育の内容・方法に関する科目          | 保育の計画と評価(講義)                           | 2   |
| 教育の基礎的理解に関する科目        | 「教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)」  | 「保育・教育方法論」として共通に科目を開設   | 保育の内容・方法に関する科目                         | (選択必修)  |
| 教育の基礎的理解に関する科目        | 「教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)」  | 「保育・教育相談の基礎」として共通に科目を開設 | 保育の内容・方法に関する科目                         | (選択必修)  |
| 教育の基礎的理解に関する科目        | 「教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)」  | 「子どもの理解と援助」として共通に科目を開設  | 保育の対象の理解に関する科目                         | 子どもの理解と援助                                       |
| 教育実践に関する科目            | 「教育実習(実習指導含む)」  | 「保育・教育実践演習」として共通に科目を開設  | 総合演習                                   | 保育実践演習(演習)                                      |
| 教育実践に関する科目            | 「教育実習(実習指導含む)」  | 「保育・教育実践演習」として共通に科目を開設  | 総合演習                                   | 本学の場合: こどもと音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、器楽演習Ⅰ～Ⅳ、こどもと造形、保育内容の理解と展開Ⅰ、Ⅱ |
| 大学が独自に設定する科目          |   |                         | 合計                                     | 68単位以上  |

### <上記以外の保育士養成課程科目>

|                     |                 |     |
|---------------------|-----------------|-----|
| ①保育の本質・目的に関する科目(必修) | 子ども・家族福祉(講義)    | 2   |
| ②保育の対象の理解に関する科目(必修) | 社会福祉(講義)        | 2   |
| ③保育の内容・方法に関する科目(必修) | 子ども家庭支援論(演習)    | (1) |
| ④保育実習(必修)           | 社会的養護Ⅰ(講義)      | 2   |
| 選択必修                | 子ども家庭支援論の理学(講義) | 2   |
|                     | 子どもとの接し方        | 2   |
|                     | 保育内容の理解と方法(演習)  | 4   |
|                     | 乳児保育(講義)        | 2   |
|                     | 小学校の社会(講義)      | 1   |
|                     | 子どもとの共生(講習)     | 1   |
|                     | 社会的養護Ⅱ(講義)      | 1   |
|                     | 子育て支援論(講義)      | 1   |
|                     | 保育実習Ⅰ(実習)       | 4   |
|                     | 保育実習Ⅱ(実習)       | 2   |
|                     | 保育実習Ⅲ(実習)       | 6以上 |
|                     | 保育実習Ⅳ(実習)       | 1   |

| 合計 | 68単位以上 |
|----|--------|
|    |        |

# 専門性向上を目指した 保育現場との連携・協働による学生の学び

## —保育・幼児教育の場とつなぐ保育実践プロジェクト—

### 2025年度 実践報告集 NO.2



第2回実践報告会  
2025/12/20  
(学生・現職卒業生・教員)

\*プロジェクトの趣旨に賛同し、保育実践の場をご提供いただいた市川市内私立幼稚園・認定こども園の皆様、ご同意くださいました保護者の皆様、そして、何より笑顔で保育学生を歓迎してくれた子どもたちに心より感謝申し上げます。

\*本報告集で使用した写真については、全て許可を得ています。

\*本報告集は、和洋女子大学教育振興支援助成を受けて作成しました。

\*2025年度の研究成果は、2026年度に日本保育学会ほかにおいて公表していきます。



2025年度 和洋女子大学教育振興支援助成

小山 朝子 (和洋女子大学人文学部こども発達学科)  
矢萩 恭子 (和洋女子大学人文学部こども発達学科)  
中村 光絵 (和洋女子大学人文学部こども発達学科)  
田島 大輔 (和洋女子大学人文学部こども発達学科)

2026年2月

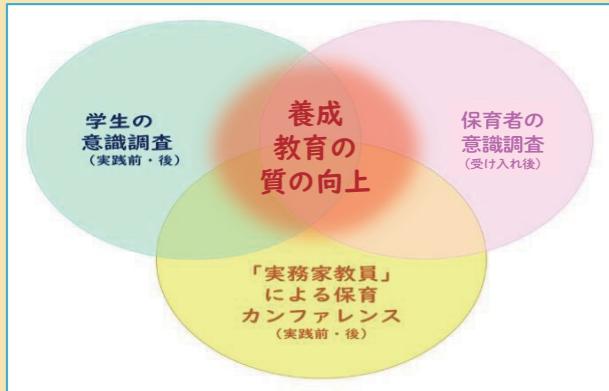


和洋女子大学  
こども発達学科

#### 【連絡先】

〒272-8533 千葉県市川市国府台 2-3-1  
和洋女子大学人文学部こども発達学科  
小山 朝子 (研究代表)  
Tel. 047-371-1924 E-mail : a-koyama@wayo.ac.jp

## ◆保育実践プロジェクトとは



こども発達学科では、市川市と様々な形で独自に連携してきた保育者経験をもつ「実務家教員」がチームをつくり、これまでの現場との関係構築の実績を活かして、保育現場と連携し、協働して養成教育の質の向上を図ることを目的に、保育実践プロジェクトと名付けた取り組みを実施しています。

## ◆2年目の取り組みと見えてきた課題

- ・体験型ワークショップ（人形劇&ペーパーサート）の企画・実施
- ・市川市内の私立幼稚園・認定こども園と連携した保育実践の企画・実施
- ・第2回実践報告会の実施（学生・現職卒業生・教員）
- ・保育実践前後の意識調査（学生）、保育実践後の意識調査（保育者）の実施・分析
- ・実践報告集の作成・広報

2年目のプロジェクトは、教員の想定よりも参加希望学生が増加し、連携協力園の確保に難航しました。他にも、これまでの取り組みを通して、以下のような課題が見えてきました。

- 授業時間割との調整
- 協力園の行事との調整
- 希望学生だけでなく全ての学生に体験の保障をするための仕組み作り

## ◆2年目は市川市内の私立幼稚園・こども園で保育実践！

2025年度は、1年～4年生の希望学生のうち当日の体調不良者6名を除く延べ計70名が連携協力園8園にて延べ12回、正課の授業外でそれぞれ1～2回ずつ保育実践体験を行いました。

第1回は保育参加を中心に、第2回は学生がやってみたいあそびや活動を提案して子どもたちと楽しい時間を過ごしました。実践後は、保育者と学生とで振り返りを行います。実習と異なり、評価したりされたりすることのない関係の中で、実践を通して生まれた疑問や気づき、思いなどについて語り合い、子どもや保育への学びを深めています。



イラスト 1年 松川楓果

## ◆人形劇&ペーパーサートのワークショップ（10月17日）

1948年創立の人形劇団ひとみ座による人形劇とペーパーサートのワークショップを実施しました。保育者をめざす学生たちには嬉しい児童文化財作品の上演と、演じ方や人形制作、舞台装置などについての講座です。

ペーパーサート「ブタとオオカミ」は、劇ならではの魅力あるセリフのやりとり、絵人形の動き、軽快な楽しいBGMの中で、ブタを応援する気持ちいっぱいでお楽しみました。

また、人形劇「三びきのくま」は、ロシア民話であることからマトリョーシカ風のふくらりとかわらしい人形たちが登場。お話の魅力だけでなく、人形の演技と語り、さまざまな背景や小道具の仕掛け、演じ手の動きには驚きの連続でした。

講座では、学生からのたくさんの質問に実演を交えた詳しい解説があり、舞台芸術の面白さと奥深さを体験しました。

